

# 発作性上室性頻拍患者の Quality of Life

## —カテーテル・アブレーションの影響—

フク タ ユ キ コ \*      フク タ      モト ユ キ      ハヤシ      エイジ ロウ      イワ      トオル  
 福田由紀子\*      福田      元敬<sup>2\*</sup>      林      英次郎<sup>2\*</sup>      岩      亨<sup>2\*</sup>  
 イトウ      タカユキ      タナカ      トヨホ      ナカガワ      タケオ<sup>3\*</sup>  
 伊藤      隆之<sup>2\*</sup>      田中      豊穂<sup>3\*</sup>      中川      武夫<sup>3\*</sup>

**目的** 発作性上室性頻拍 (PSVT) でカテーテル・アブレーション (CA) を受けた患者の生活状況, 頻拍発作の自覚, 治療前後の Quality of Life (QOL) とうつ状態の変化を調査し, 患者の QOL の状況を明らかにする。

**方法** 1995年2月～1999年1月に PSVT にて CA を受けた全患者103人 (Wolff-Parkinson-White (WPW) 症候群86人, 房室結節回帰性頻拍 (AVNRT) 27人) を対象として, 2000年6月, 自記式質問紙法により患者の状態, CA に対する患者評価, CA 前後の QOL と Self-rating depression scale (SDS) のアンケート調査を行なった。このうち21人は, 住所不明等で返送され, 調査可能だった者は82人であり, 有効回答数は59人 (有効回答率72.0%) である。

**成績** 分析対象者の平均年齢は50.5±15.8歳, 疾患割合は, WPW 41人, AVNRT 18人, 医療者による治療評価は根治率100%であった。

59人のうち, CA 後に頻拍発作自覚が無くなった者は47人 (79.7%) であった。また, CA 前には59人全員が2～4週に1回通院していたが, CA 後に全く通院しなくてよくなった者は32人 (54.2%), 生活制限をしていない者は45人 (76.3%) であった。患者評価では, 59人 (98.3%) が CA を肯定的に評価していた。

非特異的健康状態 QOL, 社会的および主観的指標 QOL は, CA 前に比し CA 後に有意に QOL が改善したと考えている者が多く, その結果, QOL 得点は CA 後のほうが高かった (非特異的健康状態 QOL :  $P < 0.001$ , 社会的および主観的指標 QOL :  $P < 0.05$ )。

SDS は, CA 前に比し CA 後に有意にうつ傾向が改善したと考えている者が多く, その結果, CA 後に減少した ( $P < 0.001$ )。

**結論** 1. CA 後に頻拍発作自覚は消失または減少, 通院回数の減少, 生活制限の緩和がみられた。

2. CA 前後で QOL (身体症状 QOL, 社会的および主観的指標 QOL), うつ傾向は改善したと考えている者が多かった。

3. CA への患者評価では, 肯定的に評価している患者が98.3%を占め, CA を受けた患者が CA 治療を受容していることが明らかとなった。

4. 医療関係者は, CA が PSVT の QOL とうつ状態を改善させることを認識して, 患者の支援に務めることが重要である。

**Key words** : 発作性上室性頻拍 (PSVT), カテーテル・アブレーション (CA), Quality of Life (QOL), Self-rating depression scale (SDS)

\* 日本赤十字豊田看護大学看護学部

<sup>2\*</sup> 愛知医科大学循環器内科

<sup>3\*</sup> 中京大学大学院体育学研究所

連絡先: 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12

番33 日本赤十字豊田看護大学 福田由紀子